

ニ本艦ノ前路ヲ東進シツ、アルモノ、如シ。但シ時化模様ナシ。一〇五〇濃霧來襲セ  
ルモ約一時間ニテ霽ル。風向漸次北偏シ北東トナル。

十七日北東四米、風曇靜穩

二三一五奥尻島神威山(五八四米)ヲ満月快晴ノ中ニ視認ス(視認距離二五哩)

十八日〇八二三神威岬灯台ヲ東六五哩ニ見テ變針利尻水道ニ向フ快晴視界極メテ良好

二四〇〇頃月明視界良好ノ中ニ宗谷岬沖通過

十九日〇七〇〇視界六哩偏北西ノ風四米樺太側霧アリ中知床岬南方八哩ニ至ルモ視

認シ得ズ

〇七一〇ヨリ〇八〇〇迄測深ヲ行フ中知床岬南方ノ舌状水深系ニ依リ艦位ヲ

雅定ス約一哩北偏セルヲ知ル

〇八〇〇濃霧來襲セルモ約十五分間ニテ霽ル知床半島ノ連山ヲ認ム

實測位置推定位置ト符合ス。知床半島東岸快晴視界二〇哩

〇八二〇ヨリ操舵檢定(變針開始)

一一〇〇同右終了

一八〇〇風北東ニ變ジ氣温下降ス

一九三七海豹島南方ニ於テ濃霧來襲

二〇三〇此ノ針路ニテハ復航ノ途ニアル隱戸ト正會スル機會多キヲ以テ

針路ヲ約十度東偏セシム

二十日〇〇三五霧晴ル

二〇〇〇針路ヲ北ニ偏シ予定航路ニ入ル北々東ノ風視界漸次良好トナル

一二〇〇頃ヨリ風向南偏、高氣圧区域ニ入ル快晴  
 二二日〇五〇〇天測位置ノ結果艦位約八哩東偏セルヲ知ル潮流ノ影響アリト認ム  
 〇五三〇「タンク」排水開始  
 一六〇〇原速八五節(固転五十三)トナス  
 一一三〇排水終了海水暗緑色トナル南風(八米)ノタメ艦位北偏甚ダシ  
 一三四〇「オハ」泊地ニ錨泊南風八米曇リ

(二)「オハ」徳山間

二十四日〇六四〇一番浮標解纜出港半速力(六〇節)トナス

〇七三〇原速力(八五節)トナス南ノ風半晴

一九三七濃霧來襲視界五〇米

二十五日〇九〇〇霧霽ル南ノ風曇高氣圧区域ニ入ル

一四〇〇北知床半島北部ノ連山ヲ認ム

一五〇〇天測及ビ陸標ニ依ル艦位ハ予定ヨリ十二五哩西偏ス

潮流ノ影響アリト認ム

二十六日〇八三〇偏東二米ノ微風ノ中ニ濃霧來襲セルヲ以テ約十度東偏航路ヲ

執リ二〇〇米界線外ヲ航行ノ目的ヲ以テ南下ス

一一一五霧霽シタルモ知床半島ヲ視認シ得ズ測深ヲ行ヒツ、航行ス

一四〇〇遠流岬ヲ認ム

一五〇〇推定位置中知床岬南東方八哩ニ達シ柴岩岬北方ニ向フ

一五ニ中知床岬ヲ認め極メテ靜穩

一六一〇淡霧來襲セルモ間モナク霧ル

二〇二〇ニ丈岩ノ灯光ヲ四〇度ニ認めタルモ約五分ニシテ見失フ霧ヲ以テ蔽ハレタルモノト認めム

二〇三〇淡霧來襲同航船一隻反航船二隻汽笛ヲ聞ク

二一ニ五半速力(六節)トナス

二二一〇宗谷岬沖ヲ約八哩離レテ通航スルタメ針路ヲ西ニ變ズ

二二二〇反航船航過セシヲ以テ原速力(八五節)ニ復ス

二三一五霧霽ル

二三二〇航二〇度ニ宗谷岬灯台ノ實光ヲ認め測深及燈台ノ方位ニ依リ艦位ヲ確定セルニ中知床ヨリ宗谷岬迄約一節ノ須流ヲ受ケタルコトヲ知ル

潮流ノ影響ナリト認めム

二十七日〇三四〇禮文水道ヲ通過ノ予定ヲ以テ水道入口附近マデ近接セシモ時恰モ日出前ニシテ霧立チテコメリ礼文島ヲ視認シ得ズ礼文島西方迂廻航路ヲ執ルノ己ムナキニ至リ

一三〇〇太陽測一四〇〇ノ武藏堆西方舌狀水深系ノ鐘測ニ依リ艦位確定ス

略推定位置ニアルヲ知ル 礼文島禮文島共ニ視認シ得ズ

二十八日〇八四〇濃霧來襲風向南西風速二米

二十九日〇六〇〇霧晴ル南西ノ風六米晴高氣圧区域ニ入ル

三十日〇九一五濃霧來襲約一時間ニシテ霽ル

- 一〇二〇 隠岐後島ヲ航三〇度ニ認ム 快晴南西ノ風ニ米
- 三十一日 一〇〇ヨリ 蓋井島西方海面ニ於テ 惰力檢測開始
- 一二〇〇 同右終了 通峽時刻迄時間ノ 餘裕アルヲ以テ 約二時間漂泊ス
- 一六〇〇 六連北東方 變針点ニ到達
- 一七〇〇 門司崎ヲ東流ノ 末期ニ通過
- 日〇〇二三 徳山蛇島南西方 錨地ニ假泊
- 〇七三〇 給炭突堤ニ 横着ヲ了ス

四、所見並ニ研究シ得タル事項

- (一) 「オハ」出港以來曇天及濃霧ノタメ 約一昼夜半 艦位實測不可能ナリシニ 北知床岬東方到達時ニハ 約十三哩西方ニ流サレ居タリ 大部分流潮ノ影響ナリト認ム
- 驅逐艦難風ノ遭難等ノ例モアリ 狹視界時 當岬附近通航ノ際ハ 深基ノ注意ヲ要スルモノト認ム 而シテ 當岬離岸距離ハ 各種ノ誤差界ヲ考慮ニ置キ 三十三哩以上トスルヲ可ナリト認ム
- (二) 宗谷海峽通過後 礼文水道通過ノ予定ヲ以テ 同水道ニ近接セルニ 時恰モ日出前ニシテ 且ツ 曇霧アリ 目標ヲ視認シ得ズ 礼文島西方迂迴航路ヲ執ルノ己ムナキニ到レリ 然ルニ 當時偏東ノ風ニテ 野寒岬ハ 割合ニ長ク視認シ得タリ 即チ 風下側ノ 同岬ニハ 霧ナカリシヲ以テ 利尻水道通過ハ 比較的容易ナリシモノ、如シ
- 豫定航路ヲ固執セス 氣象海象ヲ考慮シ 臨機ノ行船ヲ行フノ可ナルヲ 痛感セリ

(三)

隱岐西方通過時難位實測ノ結果ハ前圖モ本圖モ右偏シ或ハ左偏セリ 即チ海  
 流及潮流ノ合成タル不偏ノ偏流ノ影響ヲ受ケタルモノト認ム 狹視界時當  
 海面通過ノ際ハ考慮ヲ要スルモノト認ム  
 (四)  
 狹視界航行ニ於テ陸地近接ニハ特殊水深系ヲ利用シ測深航行ニ依ルヲ便ト  
 スルハ言ヲ俟タズ 神威岬利尻島南方中知床岬南方ノ如キ然リ 斯ハ際等  
 深線ノ記入シアル特殊海圖アレバ極メテ便利ナルモノト認ム  
 此種海圖ノ刊行ヲ希望ス

### 第三 通信ニ関スル事項

本行動中通信ハ極メテ円滑ニ實施セラレタリ  
 通信ノ實施並ニ通信状況ハ前圖ト大同小異ニシテ特記スベキ事項ナシ

第四 運用ニ関スル事項

一、「オハ」沖ニ於ケル繫留並ニ載油設備

前回(第十回)行動ノ場合ト同様ニシテ四吋鉄管ノ故障ハ復旧シアリタリ

二、繫留作業

七月二十二日 午後五時四十分仮泊地拔錨第一番浮標ニ繫留ス 風向 南東 風力 二米秒 約一節ノ南流アリテ比較的海上平穩ナリ

前回ト同様ニ指錨<sup>浮標</sup>適度ノ情カラ以テ投錨シ(本船錨ニ豫メ指錨浮標ヲ取付之潮流ヲ利用シ錨鎖ヲ延バシツ、適宜後退シ前後ノ繫留浮標ヨリ各七十耗「マニラ」索ヲ取り次デ四十四耗ノ導索(鋼索)ヲ取り入レ繫留固縛シタル後錨鎖ヲ六節迄短縮シ 艦首方位ヲ大略 Nowトシ潮流ノ流行ト 艦首尾線ヲ並行ナラシメタリ

三、繫留中ノ狀況

前回ト同様吃水ノ変化波浪ノ狀況等ニ注意シ繫留装置ノ萬全ヲ期セリ 繫留中ノ最大風力五米秒風向東ナリシモ何等異状ナカリキ

四、解纜出港

七月二十四日午前六時十五分解纜出港ス 風向東 風力五米秒殆ド憩流ニ近ク微弱ナル南流アリ 繫留索ヲ離脱シタル後拔錨ヲ始メ(艦首ハ殆ド風ニ向フ) 出港シタリ

五、所見

繫留装置ニ関シテハ前回所見ニ全ジ

第五 機関ニ関スル事項  
一、一般経過

七月十四日佐世保出港原速回転数概本五十六ヲ以テ二十一日「オハレ」入港ス  
「オハレ」在泊中ハ八時節一時間待機ナリシヲ以テ二番使用一番有気圧(五階)  
埋火トシニ時間毎ニ主機械ヲ煖機セリ  
二十四日「オハレ」出港原速回転数五十四ヲ以テ八月一日徳山ニ入港セリ  
本行動中機関各部共良態ニシテ二三ノ小事故ヲ除ク他ハ極メテ円滑ニ  
運轉セラレタリ

二、本行動ノタメニ施行セル主ナル修理並ニ保存整備作業

中 動 行	前 港 出 保 世 佐	所 在
(一) 中低圧曲脈裏並ニ裏 全手入調整 (二) 低圧前進偏心器帶 輪及全釣合「ピストン」 衝環予備品ト換装	(一) 中低圧曲脈裏全調 整 (二) 五番主軸承調整	機 械 部
(一) 一年並内外部掃除 (二) 各缶外部掃除 (三) 「ピストン」重油唧 筒蒸気管破孔 部應急修理	(一) 一年並内外部掃除 (二) 各缶外部掃除 (三) 「ピストン」重油唧 筒蒸気管破孔 部應急修理	罐 部
(一) 各種電路補修 検査 (二) 各種電路補修	(一) 各種電路補修 検査 (二) 各種電路補修	電 機 補 機 部
(一) 各種電路補修 手入 (二) 各種電路補修	(一) 各種電路補修 手入 (二) 各種電路補修	電 機 補 機 部

備考 (一) 出港前佐世保ニ於ケル曲腕<sup>復</sup>分解調整及偏心器並釣合  
ヒストリ予備品ノ換装及調整ハ工廠ト艦員ト共同ニ行ヘリ

三、本行動中ニ於ケル主ナル故障故障

(一) 三百噸重油唧筒ニ到ル蒸気管腐蝕破壊

七月二十三日重油唧筒使用ノタメ通気セントセルニ上甲板主計長室外側ニ於テ長サ約四十耗ノ裂罅ヲ生ジ噴気セリ、依ツテ取外シ検査スルニ該管ハ一般ニ腐蝕衰弱シ殊ニ破壊部ニ於テハ新造時ノ厚サ四、五耗ノモノガ一、〇乃至〇、五耗位ニ減耗シ居レルヲ發見セリ、破壊部ハ「オハ」鉸業所ニ修理ヲ依托シタルモ結果不充分ナリシヲ以テ本艦ニテバンドヲ以テ應急修理ヲ施シタリ

(二) 二号發電機調速器毀損

七月二十日使用中突然調速器發條切損シ同器ヲ破壊セリ、艦内工作ニテ修理不可能ナリシヲ以テ佐世保入港後工廠ニ修理ヲ請求スルコト、シ主トシテ他ノ一台ヲ以テ運転シタリ

(三) 瓦斯銻接器安全器毀損

七月十九日使用中安全器引火爆發毀損セリ、予備品ナカリシヲ以テ該器ノ使用ヲ中止セリ、取扱ノ不熟練ニ起因スルモノト認メラル

四、機関動作表

發着地名	自	至	運轉時數(時一分)
佐世保	七二一	七二四	一六三
山ハ	七二一	七二四	一八五
白徳山	七二一	七二四	二四一



六重油積卸シニ関スル事項

五、燃

備考	佐世保時	徳山	才八	佐世保	地名	平均吃水(呎)	燃料及消耗品出港前ノ在庫量(平常用ヲ含ム)						原速毎介回較数			
							飲雑水	補給水	糸屑	炭酸瓦斯	外磁油(透)	内磁油(透)		重油	石炭(透)	總航程
徳山三千石炭六〇〇	一、二六三	一、二九二	一、〇〇〇	一、二九五	石炭(透) 重油(透) 外部油(透) 内部油(透) 糸屑(透) 炭酸瓦斯(透) 眞水(透)	一六、一三	八〇	一〇四	一〇〇	〇	一、九〇〇	一、二四〇	八〇	一、七七七	一、五五九	五六(五〇、五四)
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	四、九四〇	五、二三五	六、八九七	八、九五〇	六、九三	二四、一〇	八五	一一八	一〇〇	〇	一、六六二	一〇五	〇	三〇四	一、五一四	五
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	一、五〇	二〇〇	三〇〇	四〇〇	四〇〇	二六、一〇	一	一九	三〇	〇	二九五	二〇三	〇	一九〇	五	六
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇	四八五	五一〇	八一二	一、〇九〇	一、〇九〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

備考	佐世保	徳山	徳山	大八	積込又ハ 陸揚場所	積込又ハ 陸揚量	場卸間 始時刻	同上終 了時刻	所要時間 (時一分)	毎時揚卸 量(吨)	記 事
一、オハ搭載量ト徳山陸揚量ト異ルハ水分ヲ計算入レルト入レルト依ル。 二、徳山ニテハ陸揚ト積込ニテ並行ニ行ヒタルヲ以下何レモ個々ノ場合ヨリモ多ク ノ時間ヲ要シタルモ總計ニ於テハ時間ヲ短縮シ得タリ	八、二五二	八、四八〇	八、〇七五	八、〇〇四	七、七二三	七、七二三	七、七二三	七、七二三	二七、五〇	二八七、八	六吋蛇管一本四吋蛇管一本計二本 一〇番及四番重油タンクニ導ク 給炭突堤六吋蛇管二本接 合ス 喉筒圧力(七〇―八〇听) 重油陸揚中ハ六吋蛇管一本十四番 重油タンクニ導ク陸揚終了後六吋蛇 管ヲ更ニ一本一〇番タンクニ導ク二日 午前二時新線故障中止ス 五吋蛇管二本圧力六〇听
	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	七、八一五 七、八一六	二七、五〇	

第六 醫務衛生ニ関スル事項

一、佐世保出港時ニ於ケル衛生情况

前回は「オハ」行動ヨリ佐世保歸港後遠航者三名ヲ送院シ出港時、受療患者ハ前行動時ヨリ引續キ治療中ノ外傷患者一名ナリ  
 二、氣象ノ衛生的影響  
 前回行動ニ比シ氣温モ高度ヲ示シ復路連日霧ノ襲来ヲ受ケル外噴調ニ經過セリ機関科員ニ對シテハ徳山入港前日ヨリ雷直前重曹一瓦宛服用セ

シメタリ

温度	地名	航路	日期
正午最高温度	佐世保出港日	航海中	七月十四日
平均	右	「オハ」碇泊中	七月十六日
		徳山入港日	七月二十三日
			八月一日
平均	右		七月十九日
			七月三十一日
			九、五
			二七、〇

三、艦内衛生狀況

出港後發生受療患者ハ六名ナリ 就中急性強核突起炎、人血絲狀虫病及胸膜炎ハ往路ニ發生 艦内ニ於テ適良ニ治療 佐世保歸港後送院セルモノナリ 其他ノ傷病ハ徳山歸着迄ニ全治セリ

受療患者病類別並ニ兵種別表

病類別	兵種別			
	兵科	機関科	其他	兵
傳染病及全血人血絲狀虫病				一
	下士官			
	兵科	機関科	其他	兵
				一
				計
				一

	計	利創	性創	喉養暑病 急性 扁桃腺炎	呼吸器病 右胸膜炎
	一		一		
	四		一	一	一
	一	一			
	六	一	二	一	一

受診患者表 (自昭和七年七月十四日  
至八月五日)

	延数	一日平均	現員対千分比
現員	三四五〇	一五〇.〇〇	—
受診患者	六三	二.七四	一八.二六
登録患者	六三	二.七四	一八.二六
就業患者	二三	一.〇〇	六.六七
軽業患者	二	〇.〇九	〇.五八
休業患者	三八	一.六五	一一.〇一

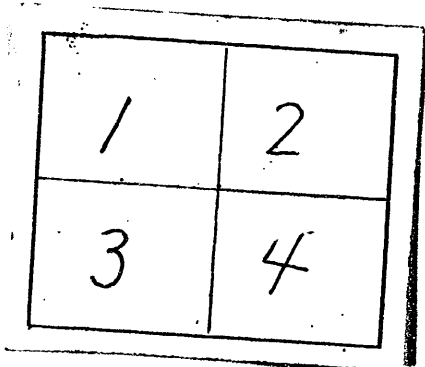
四、検査

佐世保出張時鎮守府軍醫團長ヨリ健康證明書ノ下附ヲ受ケタルモ今回ハ「オハ」入港時健康證明書提示ノ要求ナク口頭ニテ手續ヲ了セリ

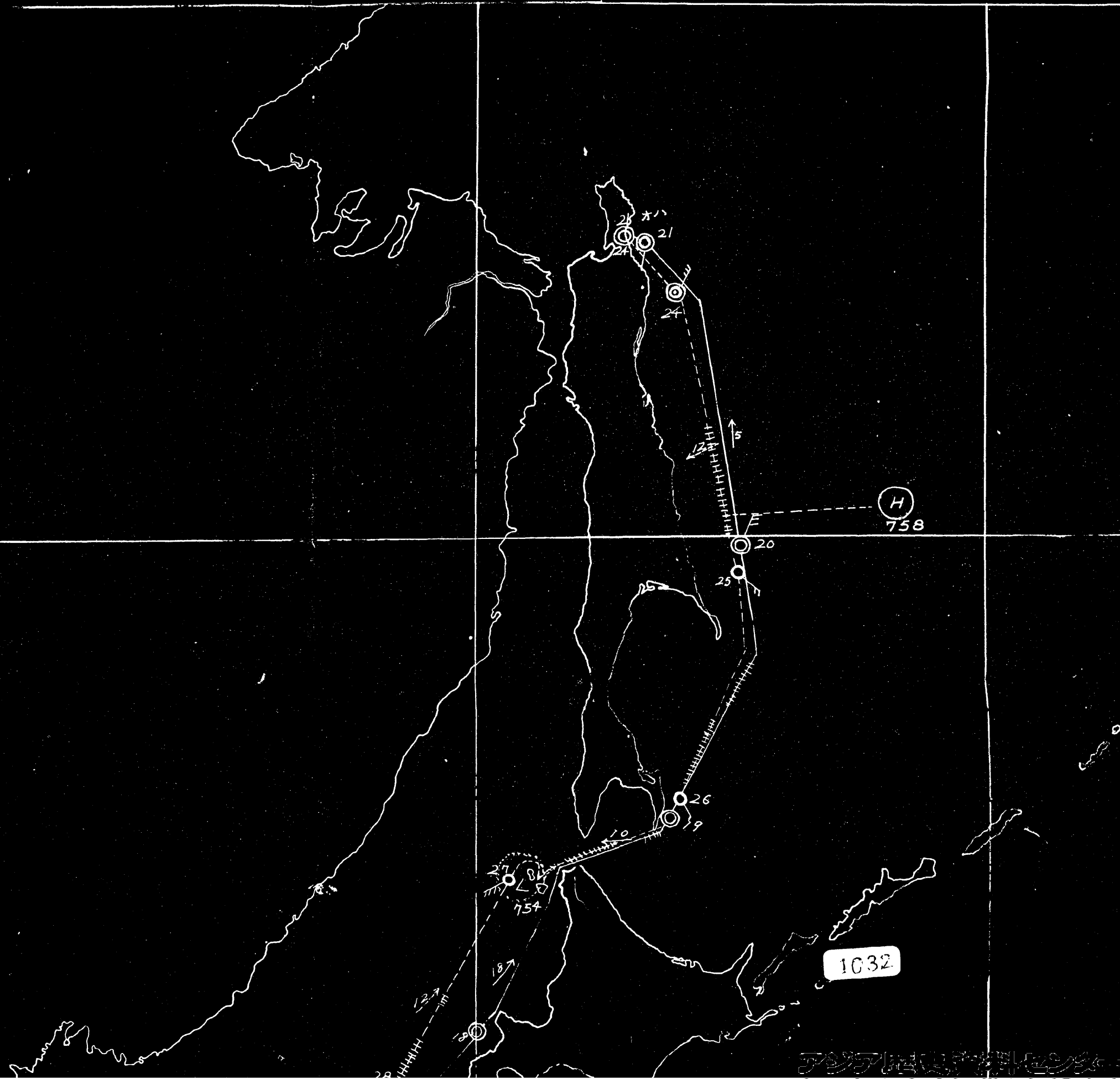
第七 會計經理ニ関スル事項

一、特記スベキ事項ナシ

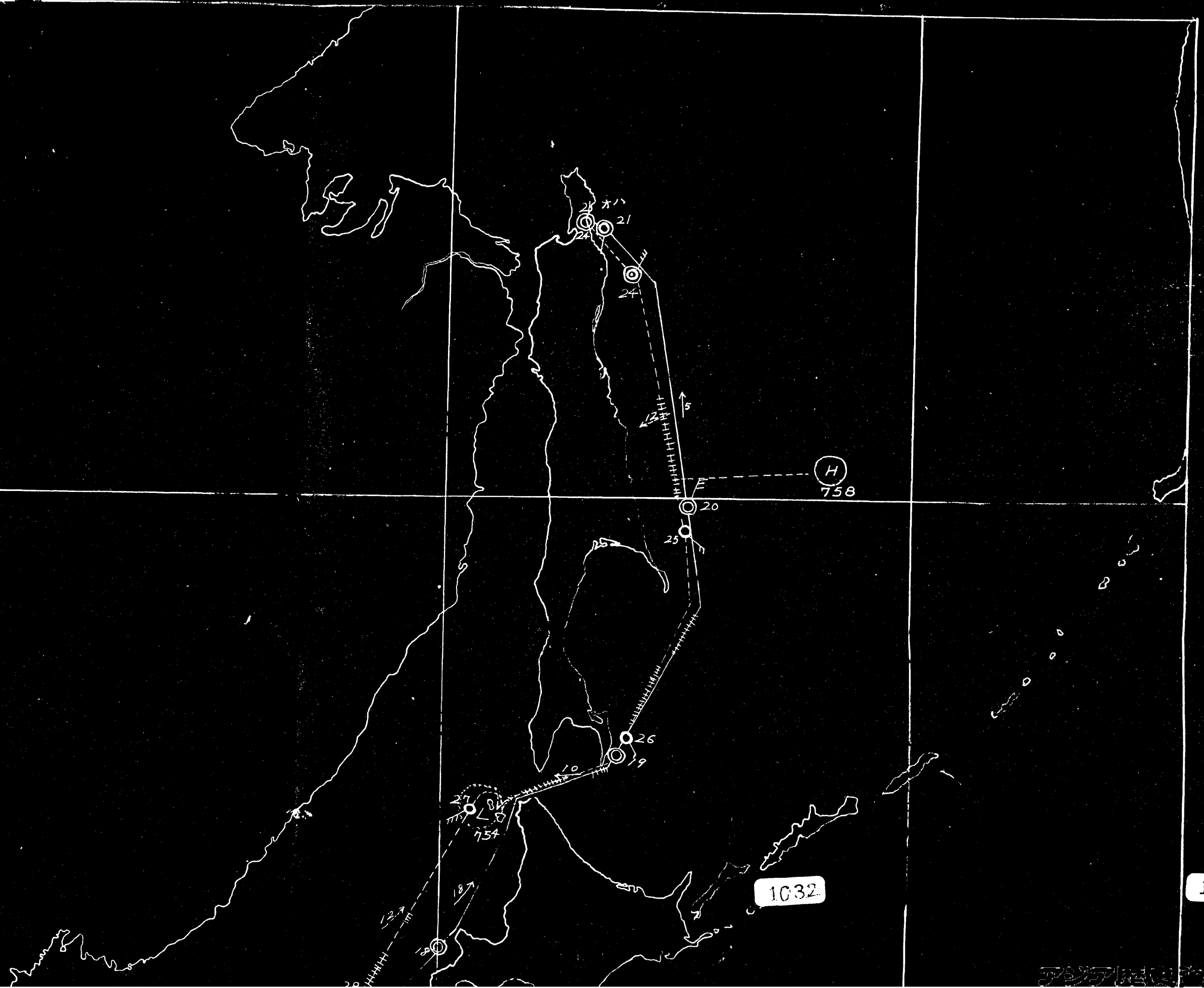
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを証明する。  13年 7 月 31 日	

特務艦早潮第十一回航行動向



特務艦早潮第十一回航行動向

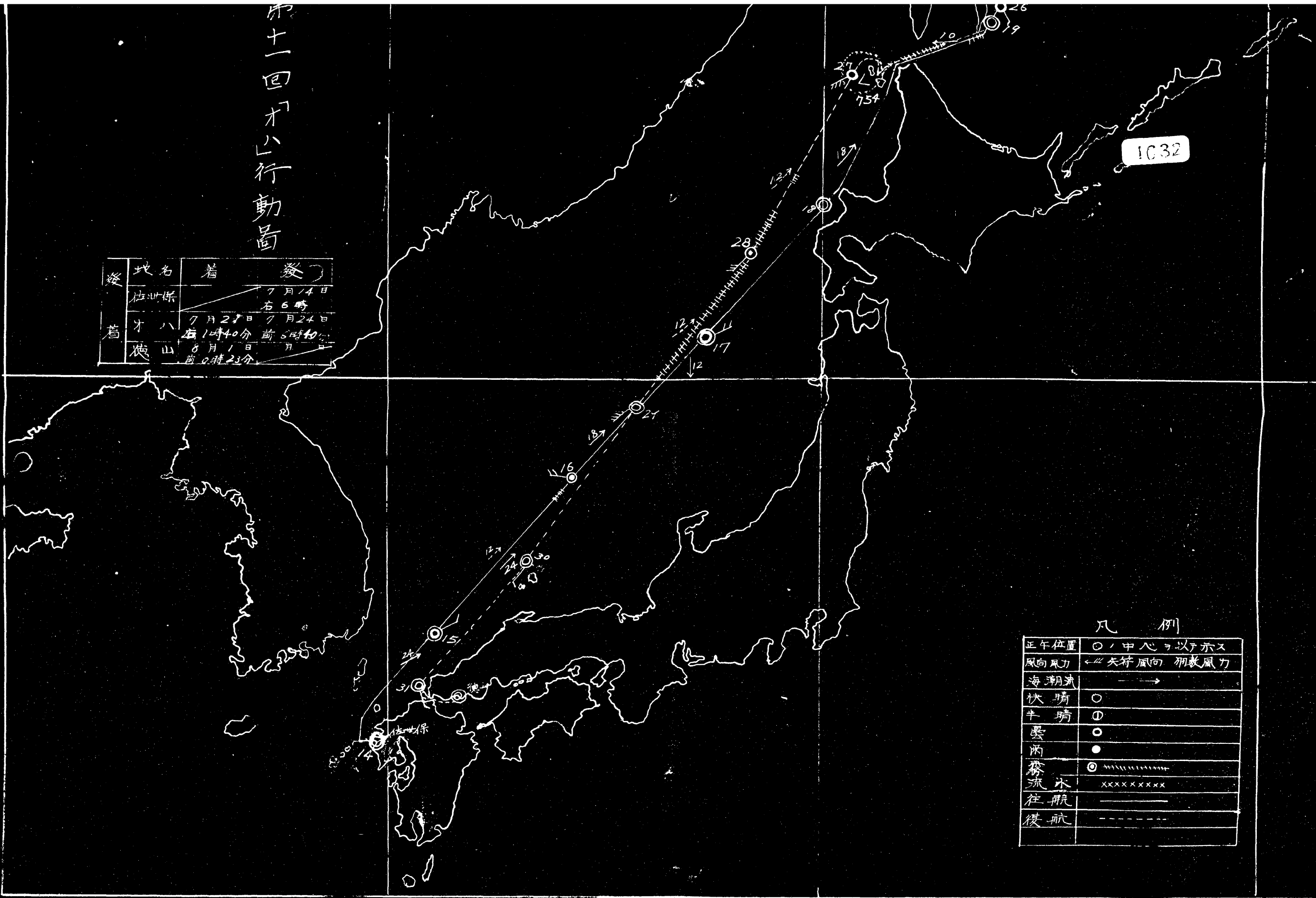


1032

1033

第十一回打山行動圖

發	地名	着	發
	佐世保		7月14日 右6時
着	才八		7月21日 右1時40分
	徳山		7月24日 前5時40分
			8月1日 前0時23分



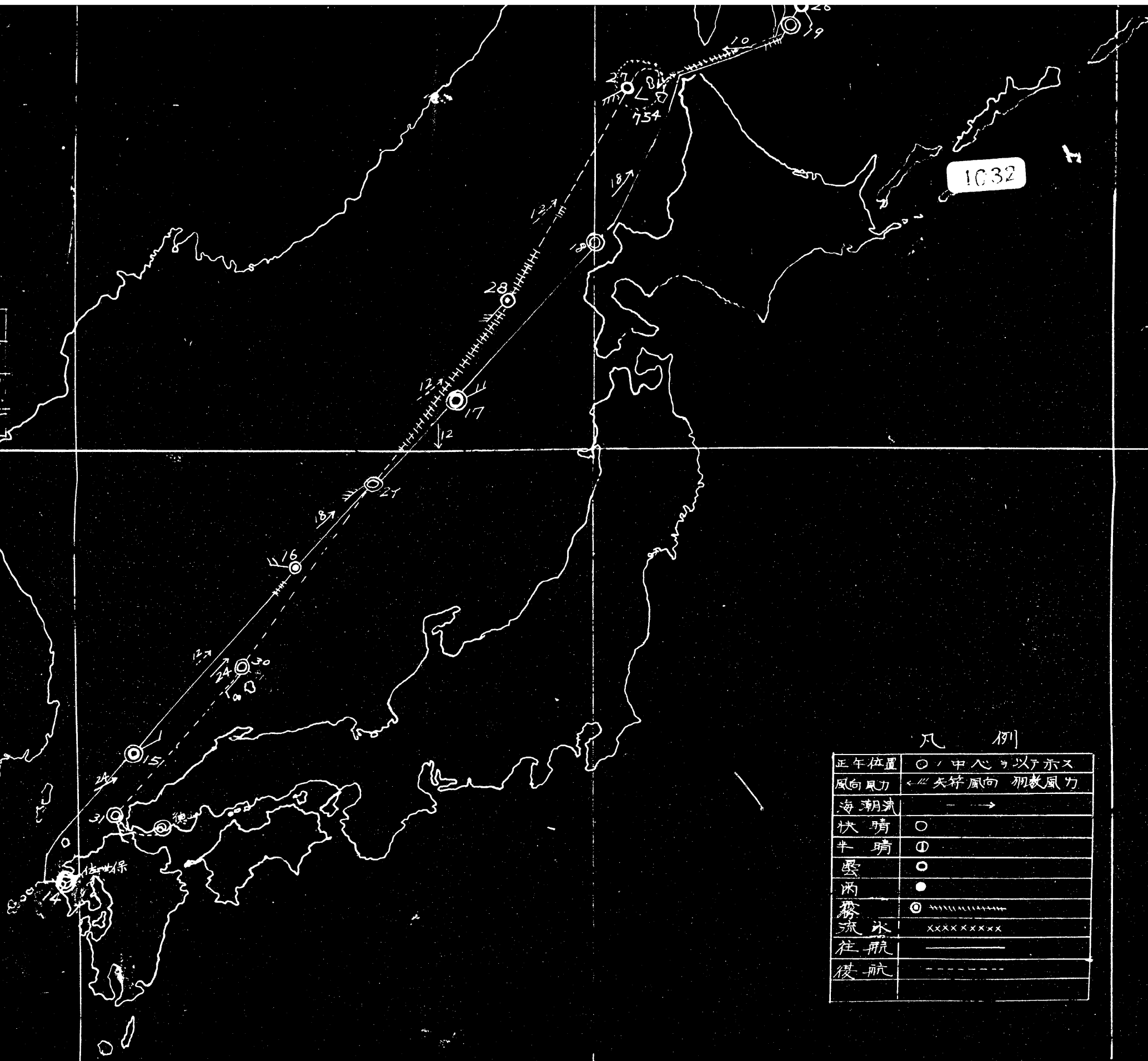
凡例

正午位置	○ / 中心ヲ以テ示ス
風向風力	← 矢符風向 羽数風力
海潮流	→
快晴	○
半晴	⊙
曇	●
霧	⊙ ++++++
氷	xxxxxxx
往航	————
復航	-----



第十一回小行動圖

着	發
	7月14日
	右6時
7月24日	7月24日
前1時40分	前6時10分
8月1日	月
前0時23分	



凡例

正午位置	○ / 中心ヲ以テ示ス
風向風力	← 矢符風向 羽教風力
海潮流	— →
快晴	○
半晴	①
曇	○
雨	●
霧	⊙
流氷	xxxxxxxx
往航	—————
復航	-----

1033

1034

1035

供



早勅秘密第五號二六

昭和七年

第二課

軍務局

海軍大臣



早勅特務艦長

行動報告、件提出

一、特務艦早勅第十三十三回北樺太方面行動報告 一部

別冊添

本件提出、送付先

- 海軍大臣 佐鎮長官
- 軍務局長 軍需局長
- 燃料廠長
- 水路部長 襟裳 隠戸 鶴見 佐多 各特務隊長

官房受

拾月廿六日



特務艦早鞆第十二回北樺太方面行動報告

昭和七年自八月十八日  
至九月三日

目次

第	第	第	第	第	第
一	二	三	四	五	六
一般	航海ニ関スル事項	通信ニ関スル事項	運用ニ関スル事項	校閲ニ関スル事項	医務衛生ニ関スル事項

第一一般

一任務  
北樺太より徳山へ原油輸送

二經過概要

地名	着	去	記
佐世保		八月十八日	<p>十八日午前佐世保出港同日港外牛首三於ヲ標柱向速力試驗ヲ行ヒ極々順調平穩ナル航海ヲ行ヒ北樺太東岸ニ於テ二回濃霧遭遇セシ短時間ニ霧レ二十五日午前〇〇泊地錨泊同日午後一番浮標ニ繫留重油搭載ヲ行ヘリ</p> <p>〇〇在泊中原油約八十噸ヲ搭載シ廿六日刻解纜出港北樺太東岸ヲ南下中約二日二日ヲ連續濃霧ニ遭遇シ宗谷岬ニ於テ荒天ニ會セル外概々順調ナル航海ヲ續テ九月三日午後徳山給油突堤ニ横付シ原油ヲ陸揚セリ</p>
才	八月廿五日	八月廿六日	
徳山	九月三日		
備考	經過詳細航海ニ関スル事項参照		

三教育訓練保存整備

信路ノ天候ニ慮ヒシ既路ノ濃霧及雨天ニ終止シタルニ定メ教育訓練及保存整備ヲ實施スルコトヲ得タリ

八月三十日操舵檢定一回施行セリ

第一 航海ニ関スル事項

記 事

一 行動概要

地名	出入港時刻		航路
	着	弁	
佐世保	八月廿八日	八月廿九日	一 日本海縦新直條航路 (若宮島北西四哩、神崎岬北西五哩三毫) 二 利尻水道、宗谷海峡(通過) 三 中知、赤岬、南東八哩、北知、赤岬、東方三哩(通過) 四 北樽太、距岸五、乃至六、哩、北上
才八	八月廿八日	八月廿九日	
徳山	九月三日	九月五日	一 宗谷海峡迄概不往路ヲ遊航 二 礼文島西方迂回航路 三 日本海縦新見島東方六哩(通過) 四 角島北西四哩經由下南海峡(通過)
			航程
			1578.0 哩
			7-0.3 時
			9.1 節
			9.4 節
			記事

二 航路、海象及氣象

別當参照

三 經過

一 佐世保——才八間

一八日。九。佐世保第一。番浮標解纜出港半晴偏東、微風原速九、三節

(回航五四)牛ヶ首標柱間ニ於テ九、三節、速力試驗ヲ施行ス

一九。若宮島北西四哩ニ達シ日本海縦新航路ニ入ル曇リ極メテ靜穩

二九。二。三。速約二ノ一節、順流ヲ受テ對馬海流ト認ム

一〇〇。音。頃。雨。降。雨。南。東。ノ。風。弱。シ

一九〇。風。向。北。ヨリ。漸。次。西。偏。シ。氣。圧。漸。下

二〇〇。風。向。急。変。シ。南。西。ト。ナル。風。速。六。米。小。低。氣。圧。本。艦。ノ。南。西。ヨリ。東。至

近。ノ。距。離。ヲ。過。ギ。北。東。ニ。向。ヘ。ル。天。ノ。ナル。カ。如。シ

二一〇。雨。歇。ム。好。天。ト。ナル。南。西。ノ。風。七。米

二一日。午前。午後。共。順。風。ニ。惠。レ。テ。快。走。ス。(順。流。約。一。節)

二二〇。奥。尻。島。ヲ。船。ニ。五。度。三。五。理。ニ。認。ム

二二日。〇。二。五。神。威。岬。北。西。五。理。ニ。到。達。利。尻。水。道。ニ。向。テ。南。西。ノ。順。風。八。米。晴。視。界。良

好。正。午。頃。利。尻。水。道。ニ。入。ル

二七三。順。風。快。晴。ノ。中。ニ。宗。谷。海。峽。通。過。約。一。五。節。ノ。順。流。ヲ。受。テ

二三日。中。知。床。南。東。方。變。針。点。ニ。達。シ。北。知。床。岬。東。方。三。ノ。理。ニ。向。テ

雲。間。月。明。ノ。下。ニ。知。床。山。ヲ。散。見。セ。ル。外。陸。標。ヲ。視。認。シ。得。ザ。リ。キ。氣。圧。急

昇。風。向。北。ニ。急。変。シ。風。速。衰。テ。漸。時。高。氣。圧。区。域。ニ。入。ル

〇。四。四。濃。霧。未。散。ル。セ。ル。約。四。〇。分。ニ。テ。霧。止。極。テ。靜。穩。氣。温。急。降。ス

二七五。艦。六。ノ。度。ニ。北。知。床。半。島。ヲ。認。ム

二一〇。北。知。床。岬。東。三。ノ。理。ニ。達。シ。變。針。北。樺。太。ノ。距。岸。五。ノ。理。ヲ。五。六。ノ。理。ヲ。北

ト。ス

二四日〇四一五濃霧未散南西ノ風六米

〇七〇霧霽有ル

一〇五淡霧アリ視界約四哩トナル

一三七「夕」内海水排出開始原速力八三節(回転五〇)トナス

一六三排水中止

二五日〇二〇「朝」向ケ変針淡霧有リ視界二哩

〇三一測深開始

〇五三排水再開原速力八三節(回転五〇)トナス

〇七二「朝」電信所ノ方向ヲ測定セルモノト測深トヨリ推定セル艦位ハ約六哩

ノ定航路ヨリ北偏セルヲ知ル

〇七五「朝」泊地ニ向ケ変針視界約三哩

〇七三〇入港ノ定時刻ニ餘裕ヲ生カシテ以テ半速力六節(回転三四)トナス

〇八〇〇排水終了原速力八三節(回転五〇)トナス

〇八二〇「朝」油槽ヲ舩三〇度ニ認ム

〇九一八「朝」泊地ニ碇泊ス無風極メテ静穏南流約二分一節視界約三

哩

(本行動ノ全航程ヲ通ジ霧少ク海上平穩而シテ順風順流ニ盡ク最天順調ニ経過セリ)



一才山一徳山間

二六日一七五才山一番浮標解纜出港偏南ノ風曇リ海上霜アリ

二七日〇五五南西ノ微風濃霧来襲(氣温一〇八水温二一〇)正午迄断續アリ

正午太陽測ヲナシ得タル是午南ヨリ連續性トナル視界一〇米乃至五〇米

二八日〇九一北知床岬東方ニ。漚ニ於テ南四三度西ニ變針濃霧尚断續ス

偏南ノ風四米

一九五〇霧霽霽ル南ニ東ノ風四米快晴トナル

二九日〇四五〇知床山ヲ船五〇度ニ認ム約五哩東偏セルヲ知ル

〇五〇〇宗谷海峡ヲ向テ變針偏南ノ風五米曇リ

〇九〇〇ヨリ方向探知器方位測定教練開始

一四一七細雨断續ス氣圧急降ス

一四一七偏南ノ風五米海水温度急降シ濃霧来襲セル元約二〇分ニ霽ル

一五〇〇ヨリ風力頗ニ加ハリ氣圧急降荒天トナルニ又岩南方ヨリ艦位ノ南偏

甚シ強盛ナル南東流約五節ヲ感ズ驟雨断續ス

一九〇〇頃最大風速ニ五米ニ達シ宗谷岬北方ニ於テ東流約四節ヲ感ズ

風雨烈シテ視界極ニ狭少トナル

一九三〇宗谷海峡ヲ通過ス長溝大ヲ艦ノ横動五度ニ達ス 氣圧漸升ル

ル天風雨甚シ 低気圧本艦北方至近、距離ヲ東進シツアリ本艦ハ其ノ  
右半内ニアルヲ知ル 禮文、利尻水道共視界狭少ナルト海流強盛ナルヲ慮リ  
禮文島西方迂迴航路ヲトル

二〇日〇頃ヨリ風力漸次衰フ無線方位測定教練ヲ止ム

三〇日〇一二〇測深ニヨリ禮文島北方二〇〇米界外ニ出テタルヲ知リ変針南下日本  
海ニ入ル

〇五三〇利尻山ヲ航一三〇度ニ認め晴南西、風六米

一三三〇操舵檢定(保針)開始細雨アリ

一四三五操舵檢定終了

三一日終日淋雨漸續ス

二〇〇頃風向急變ス小低気圧通過セルヲ知ル

一日〇八三〇太陽ヲ散見ス

正午天測位置ニテ約一五哩西偏セルヲ知ル

二日〇六三〇隠岐島ヲ航四〇度ニ認め

〇七〇頃北向海流約三節ヲ感ズ細雨漸續ス原速八八節(回転

五六)トナス

淋雨漸續ス

三日〇六五五六連北東方變針点ニ達ス

〇八〇〇門司崎ヲ西流ノ初期ニ通過

一四五〇徳山給油突堤ニ横付ヲ了ス

四所見竝ニ研究ニ得タル事項

一 樺太地方低氣圧ノ後面ニハ霧ヲナシ

八月二十四日正午、天氣高ニ依テ低氣圧ノ一八七四八耗ニシテ西能登呂岬西方一五〇哩ニ他八七五ニ耗ニシテ宗谷海峡東口附近ニアリテ共ニ北東ニ進行中ナリ本船ノ位置置ハ津輕海峡西口ヨリ西方約一〇〇哩ニシテ針路北東約一晝夜ヲ迷ヒテ低氣圧ヲ追躡中ナルガ如キ觀ヲ呈セリ順風順流快晴ニシテ極メテ順調ナル航海ヲ續ケ利尻水道宗谷海峡共霧ヲナク快晴ノ中ニ通過セリ即チ低氣圧ノ後面ニハ霧ナキヲ立証セルモノナリ但シ利尻島ノ南西側山腹ニハ霧雲變リ僅カニ其ノ山頂ヲ散見セルノミ

二 〇山狭視界入港時ニ於テ方向探知器ヲ利用セバ入港容易ナラントハ前回報告ニ所見ヲ述ベタル処ナルガ恰モ今回〇山入港時狭視界ヲニシテ〇山鑛業所ノ方向ヲ探知シテト測深トニヨリテ確實ナル艦位ヲ得テ容易ニ入港スル事ヲ得タリ當方面ニテ行動スル艦船ハ方向探知器ヲ裝備セバ極メテ便利ナルモノト

認め

三 宗谷海峡、強盛流（天候異変時ニ於ケル）ニ就テ

（一）経過（別紙航跡圖参照）

八月廿九日三〇。推定位置ニ大岩灯台、九一度一六哩針路ニ五六度回転速力八五節

一四七濃霧未龍襲視界一〇。米（偏南風五米氣温一四、八水温九、五）

一四三〇ニ大岩ヲ避ケルタメニ四三度ニ変針

一四三五測深ノ結果ニ大岩南方四〇米等深線以内ニアルヲ知ル

一五〇日霧霽ル（海水温度急昇シ一三、五トナル）氣圧漸降風速漸加ス

驟雨來龍襲シ断續アリ（視界四〇。米位ナルコトアリ）ニ大岩ヲ視認シ得ズ

一五三〇雨、霽間ニ宗谷岬ヲニ三八度ニ認め

船位著シク南偏セルヲ知ル

一五四〇二四七度ニ変針ス風速漸加 氣圧急降ス 強盛ナル偏南海流ヲ感ズ

一六二五ニ七一度ニ変針ス風速ニ〇。米宗谷岬一帯ノ連山雨中ニ隱見ス

一六四五風速ニ五米氣圧七五四耗ニ達シ天候險悪トナル豪雨断續ス

北西ノ空、暗紫色ノ乱雲ニ蔽ヒ北東ニ走ルヲ見ル風向ニ依リ低氣圧ハ本艦

北西方至近ノ距離ニアルヲ感ズ（天氣圖ニ依リ當時海馬島西方ニ七五。

耗ノ低氣圧アリ）

一八〇●宗谷岬灯台ヲニ。六度四厘ニ見テニ五六度ニ變針ス。偏東ノ海流依然トシテ強シ(約四節)  
 一八一九航海灯ヲ点ス  
 一九三〇宗谷岬灯台ヲ一ニ。度五、五厘ニ見テニ七六度ニ變針。禮文島北方向ノ豪雨繼續ス。氣圧漸昇。風速漸減ス  
 二一〇の偏南ノ風七米トナリ氣圧七五六耗ニ急昇セルモ雨續ク  
 遂ニ野寒岬灯台ヲ認メ得ズ  
 10) 氣象  
 午前九時ヨリ午後九時ニ至ル氣象表次ノ如シ

日時	船名、位置	風向	風速	浪高	天候	氣圧	氣温	湿度	水温	測風	動搖	波浪	視界
9		190	3		0	960.0	16.8	16.2	15.2	23.5	0	2	2
10		180	4			959.1	17.2	16.8	15.8			4	
11		"	"		"	959.0	17.0	16.5	"	23.0	"	"	"
12	X=148°82'	"	"		"	958.9	"	16.7	16.0	"	"	"	"
1	490度	"	"	180	"	958.1	17.5	"	15.5	23.5	"	3	"
2		"	6	"	"	957.2	16.5	16.0	14.8	"	"	4	"
3		160	"	120	"	955.8	14.8	14.6	13.5	"	4	6	"
4		180	12	130	"	954.5	18.0	18.0	18.2	"	0	0	"
5		190	20	140	"	953.1	18.3	18.8	18.5	"	7	7	"

6	X	16.0	26	18.0	"	"	25.2.6	24.0	19.1	19.0	"	"	"	"	"	"	"
7	10.0	18.0	22	"	"	"	"	"	19.8	"	"	"	"	"	"	"	"
8		19.0	18	"	"	"	"	"	"	"	"	6	"	"	"	"	"
9		"	"	"	"	"	25.9	24.2	20.0	19.5	"	10	"	"	"	"	"

ハ新見

ハ天候異変時の流れ

前回行動ニ於テ宗谷海峡西航時偏東ノ風(約一〇米)連吹セル時、宗谷岬東方ニ於テ約ニ節ノ偏西向流ニ會シ野寒岬北東方ニ於テ約ニ節ノ北流ニ會セリ

本回行動ニ於テ前記経過ニ見ル如ク午後四時頃偏南ノ風(艇正横)ニ五米ナリニ保ラズ艦位著シク左偏シ約四節ノ偏流ヲ認メタルヨリ考フル時ハ當時偏南ノ強盛風連吹シ野寒岬西方ヨリ北上スル海流強メラレ宗谷海峡ニ圧流サレ約五節以上ノ強盛流トナルト認ム

要スルニ宗谷海峡ニ於テ天候特ニ風候ノ異変ニ依リテ流向流速ニ大變化ヲ與フルコト多キニ注意ヲ要スヘシ

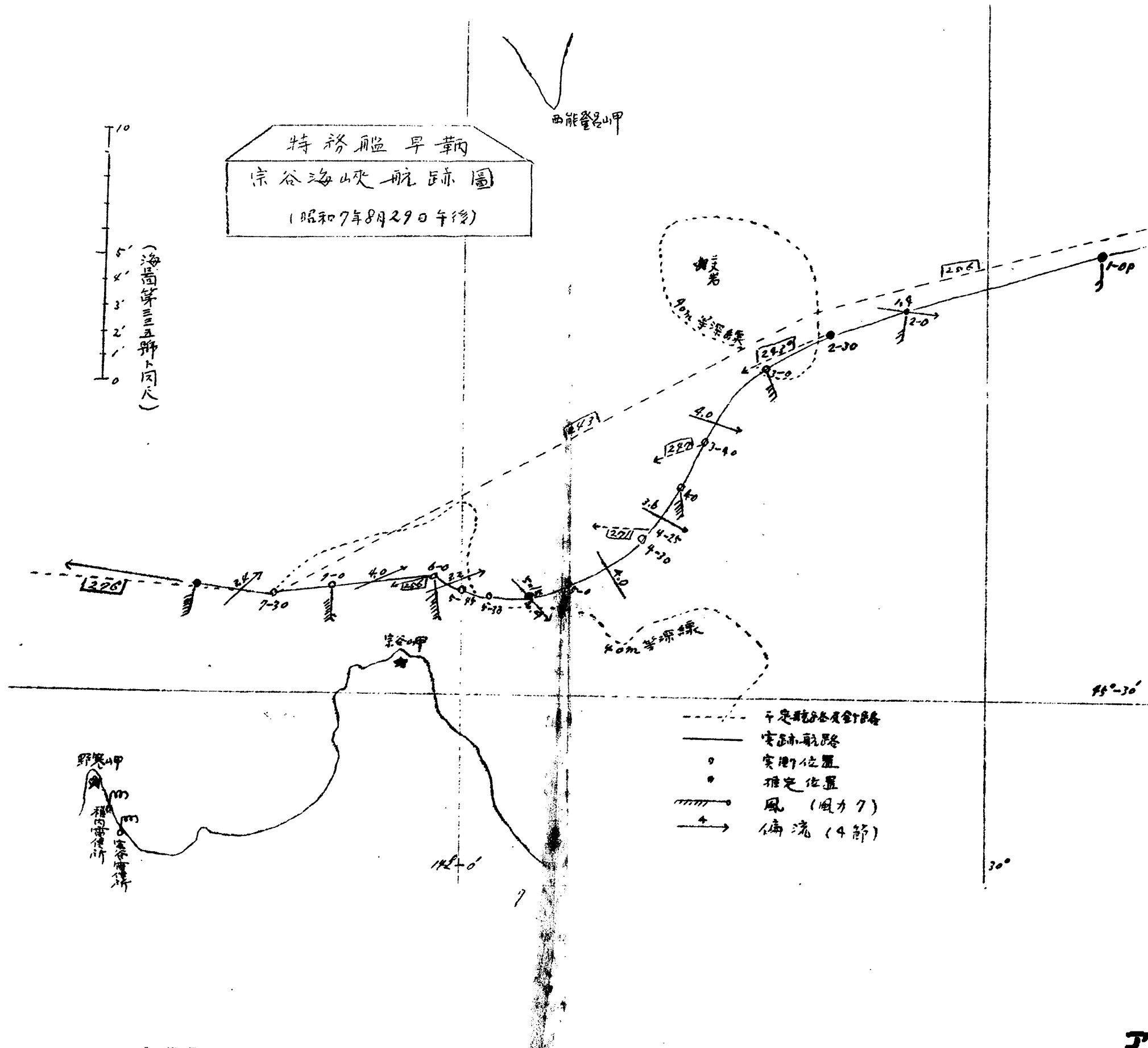
(2) 狭視界時宗谷海峡ノ通航ニ就テ

宗谷岬北方及東方水深系ヲ安ホスルニ四〇米等深線以内ハ危険界ニシテ若シ測

深ニ依リテ四〇米以内ニ入ルヲ認メタル時之ガ宗谷岬北方ナルヤ或ハ又東方  
 ナルヤハ不明ニシテ姑息ノ手段ヲ用ヒテ漫然ト小角度ノ變針等ヲ行フ事  
 アランカ大ナル危険ニ頻スベシ（航跡圖参照）  
 即チ斯ル強盜不両難ナル海流区域ニ於テ目標確認ノ公算アルカ或ハ方  
 向探知器等ノ裝備アル場合ノ外ハ及転又ハ大角度ノ變針ヲ行フノ途  
 アルニ投錨モ停止漂泊モ大危険ナルトニ想倒スベキトト思考ス

特務艦早鞆  
宗谷海峡航跡圖  
(昭和7年8月29日午後)

(海圖第三五冊上図八)



- 予定航路及針路
- 実跡航路
- 実測位置
- 推定位置
- ~~~~~ 風 (風力7)
- 偏流 (4節)



日航線不同標器二航

(昭和七年八月十日在東京海軍測候所)

航線

月日時分	航線 X * 緯度	位置 D. R. 經度	受信局名 (受信機方位)	受信局迄の 距離	誤差
8-29-0950	X 45-56.6N	143-24.3 E	宗谷	241.5	79'0 - 5'0
1010	45-54.3	143-10.6	"	237.0	70.0 - 10.0
1130	DR 45-51.2	142-55.5	大泊	354.0	47.0 + 2.0
1208	" 45-50.0	142-47.5	稚内	245.0	51.0 + 2.0
1219	" 45-42.0	142-45.5	宗谷	237.0	50.0 + 2.0
1253	" 45-48.0	142-39.0	大泊	6.0	50.5 ± 0
1507	X 45-43.0	142-17.0	宗谷	228.0	31.0 - 6.0
1510	" 45-42.5	142-16.0	稚内	237.0	30.0 + 2.0
1526	/	/	"	244.0	28.0 + 8.0
1536	/	/	"	238.5	27.0 ± 0
1629	" 45-36.0	142-10.0	宗谷	240.0	24.0 ± 0
1651	/	/	稚内	246.0	24.0 + 2.0

1810	45-345	141-57.0	"	241.0	15.5	+ 1.0
1856	/	/	大 泊	33.0	23.0	3.
2005 DR	45-340	141-445	種 内	19.8.0	9.0	± 0
2100	/	/	宗 谷	147.0	12.0	- 15.0
2115	/	/	種 内	153.0	10.0	- 1.0
2120 DR	45-360	141-32.0	"	150.0	10.5	± 0

(誤差、測角、方大ナル時 ⊕トセリ)

見

成績ヲ見ルニ絶体値平均誤差ニ度内外ニシテ多数利平均誤差ニ  
 近シ而シテ之ヲ航海術上利用スル際ニ誤信距離(三。測下)時、恒、測長  
 値ニ相當信用ヲ置クニ是レ又遠距離ニ於テ小角度、誤差大距離、誤差  
 ヲ生スルヲ以テ回、測定方位ヲ過信スル危険ニシテ連測七平均値ニテ始テ  
 相當正確ヲ期シ得ベシ

要ニ航海術上方向探知器、本々全信ヲ置キテ利用シ得ルニ至ルニ  
 尤モ之ヲ測ト併用スル時、確實ナル船位推定ニ効果甚大ナルト見

2

第三 通信ニ關スル事項

一 本行動中通信ニ極メテ圓滑ニ實施セラレタリ  
 二 オハ入港前濃霧ニ遭ヒタル際本艦方向探知機ニテ、オハ向ノ方位ヲ測定シ入港針路決定上極メテ有効ナル資料ヲ得タリ  
 三 其他ノ通信實施ニ通信狀況、前回ト大同小異ニシテ特記スヘキ事項ナシ

第四 運用ニ關スル事項

一 繫留作業

八月二十五日午前十時半、泊地、拔錨第一番浮標ニ繫留ス

風向南西 風速約一米秒 約一節ノ南流アリテ海上極メテ平穩ナリ 前回

ト同様ノ方法ヲ以テ作業シ特記スヘキ事項無シ

二 解纜出港

八月二十六日午後五時十二分、解纜出港ス 海上極メテ平穩ニシテ時々南東ノ

微風アリ 殆ド甜流ニ近ク微弱ナル南流アリ 前回ト同様ニテ特記スヘキ

事項無シ

第五 機關ニ關スル事項

一 一般經過

八月十八日佐世保出港港外ニテ回転五十六ニ對スル速力試験ヲ行ヒ九ニ節ヲ得タリ此ノ回転数ヲ以テ原速トシ二十六日オハ入港スオハ在泊中八節一時間待機ナリシヲ以テニ在機使用一在有氣圧(五好)継火トシ二時間毎ニ主機機ヲ暖機セリ  
 二十六日オハ出港原速回転五十一途中五十四ニ増加シ概ネ此ノ回転ヲ九月三日徳山ニ入港セリ  
 本行動中機筒ノ各部共極メテ良態ニシテ圓滑ニ運転セラレタリ  
 本行動中多メ施行セル主ナル修理並ニ保存整備作業

所在	機部	罐部	電機部
佐世保	(一) 各蒸氣筒開放檢査 (二) 主送水唧筒 滑動部調整	(一) 二号在過熱管換裝 (二) 重油唧筒ニ至ル蒸氣管修理復旧	(一) 二號弁電機機調速器修理 復旧調整 (二) 舵取機及冷却機曲肱調整
出港	(三) 高圧吸錐棒及中壓滑弁棒填坐衛帶 檢査	(三) 一三四號在灰受八内各在灰落座八内修理 (四) 二号在内部掃除 (五) 一三四号在外部掃除	
前	一 機室天窗防錆	(一) 四号在内部掃除	(一) 電路補修

行動中

手入  
 (一) 高圧曲脈検査調  
 (二) サイレン取外し手入  
 (三) 三五六年在外部掃除  
 (四) 上甲板雑用蒸気管復修

本行動中ニ於ケル主十九故障歟損

九月三日徳山入港主復水器細管漏洩、疑アルニ付水圧試験施行セシニ  
 細管一本腐蝕穿孔セルヲ発見ス 依テ右細管ハ予備品ト換装復旧  
 水圧(一四五瓩) 試良

所要人員 十名  
 所要時間 一三時間

四 核開動作表

合		航程	原速毎分回転數	運轉時數(時分)	發着地名	
石炭	重油				至	自
一九〇	七八	一、五七八	五六、五〇	一七一一	至	自
二八〇	〇	一、五五六	五一、五四、五六	一八九一	至	自
					至	自

五、燃料及消耗品出港前ノ在庫量(平常用ノ場合)

平均吃水 平均吃水(噸)	種 類					
	飲雜水(噸)	補給水(噸)	糸 屑	炭酸瓦斯(噸)	外磁油	内磁油(立)
一九一六	九二	一六〇	一〇〇	一四〇	一七三〇	一三六
二五一九	一二〇	一三八	九〇	〇	一三三〇	一七八

六、重油積卸ノ開及ノ事項

地名	石	炭(噸)	重油(噸)	内磁油(立)	外磁油(立)	糸屑(噸)	炭酸瓦斯(噸)	海水(噸)
德山人港時	七五四		二二	三五〇	六〇〇〇	三七〇	五六〇	五一四
才 八	一〇四五		二二	五四〇	七三三〇	四五〇	五六〇	八五六
佐世保	一二三五		一〇〇	六六六	九〇五〇	五二五	七〇〇	一一〇八

積込又ハ 陸揚場所	積込又ハ 陸揚量	揚卸開 始時刻	同上終 了時刻	所要時 間(時分)	毎時揚 卸量(噸)	記 事
才 八	八〇一〇	七、八、十五	七、八、十六	二七、一〇	二九六、七	六時燃費、本四時燃費、本計 二本一、番及四番重油外、二 本

徳山	八〇七	七一九一三	七一九一四	一八一〇	四八四	重効安浸八寸鉄管等 暖筒圧(七〇一八〇所)
		七九四五	七九四五			

備考 〆山搭載量ト徳山陸揚量ト異ナルハ水介ヲ計算ニ入レト入サ  
ルトヨル

第六 醫務衛生ニ關スル事項

一、佐世保出港時ニ於ケル衛生状況

出港前、健康診断ニ於テ遠航不適者一名ヲ発見、転勤セシメ出港時  
ノ受療患者ハ三名ナリ

二、氣象ノ衛生的影響

今回ハ氣温最モ高度ヲ示シ、天候又往路ハ順風、平穩ニシテ極メテ順調ナル  
航海ヲ續ケタルヲ復路ニアリテ、前回同様連日霧、未龍ヲ受ケテ、特ニ氣  
象ノ影響ト見ルベキモノナシ

温度	地名	佐世保出港日	航海中	〆山碇泊中	徳山入港日
正午最高温度		八月十八日	八月十九日	八月二十五日	九月三日
正午最低温度			八月二十四日	八月二十六日	
平均		二八・〇	二〇・八	一五・〇	二六・五

三、艦内衛生状況

出港後、衛生受療患者ハ六名ナリ、就中右鎖骨ヲ折リ、〆山碇泊中、

生艦内ニ於テ適應加療スルニ急治ノ見込ナキヲ以テ横須賀寄港後横須賀海軍病院ニ送院セルモノナリ

受療患者病類別並ニ兵種別

病類別	兵種別		計
	下士官	兵	
性病	1		1
癩毒性關節炎			
癩疽		1	1
外被病			
皮下結締織炎		1	1
外傷			
裂創		1	1
骨折(鎖骨)		1	1
骨折(肋骨)	3		3
計	2	4	6

受診患者表 (自昭和七年八月十八日 昭和七年九月三日)

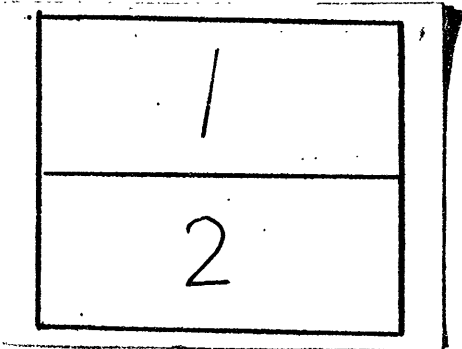
現員	延数	一日平均	現員對千分比
2416	151	151	26.9%



検査	休業患者	軽業患者	就業患者	登録患者
四二	四	七	一六	六五
二、六三	〇、四四	一、〇〇	四、〇六	
一七、三八		二、九〇	六、六二	二六、九〇

佐世保出港時領守府軍医長ヨリ健康証明書ノ下附ヲ受ケタル又前回同  
 様ノ才心入港時健康証明書提示ノ要求ナク口頭ニテ平續ヲソセリ

# 分割撮影ターゲット

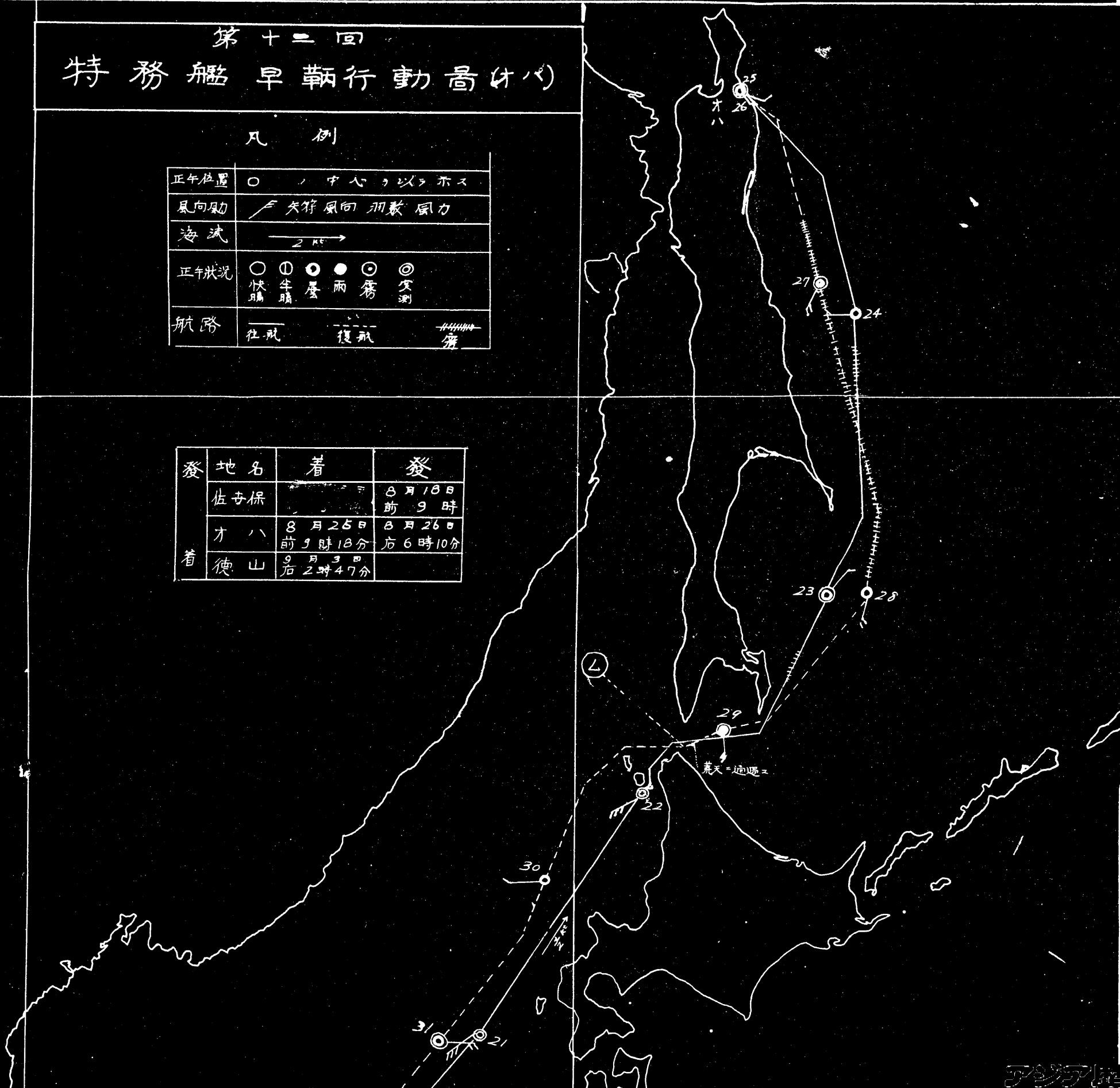
分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを証明する。  13年7月31日	

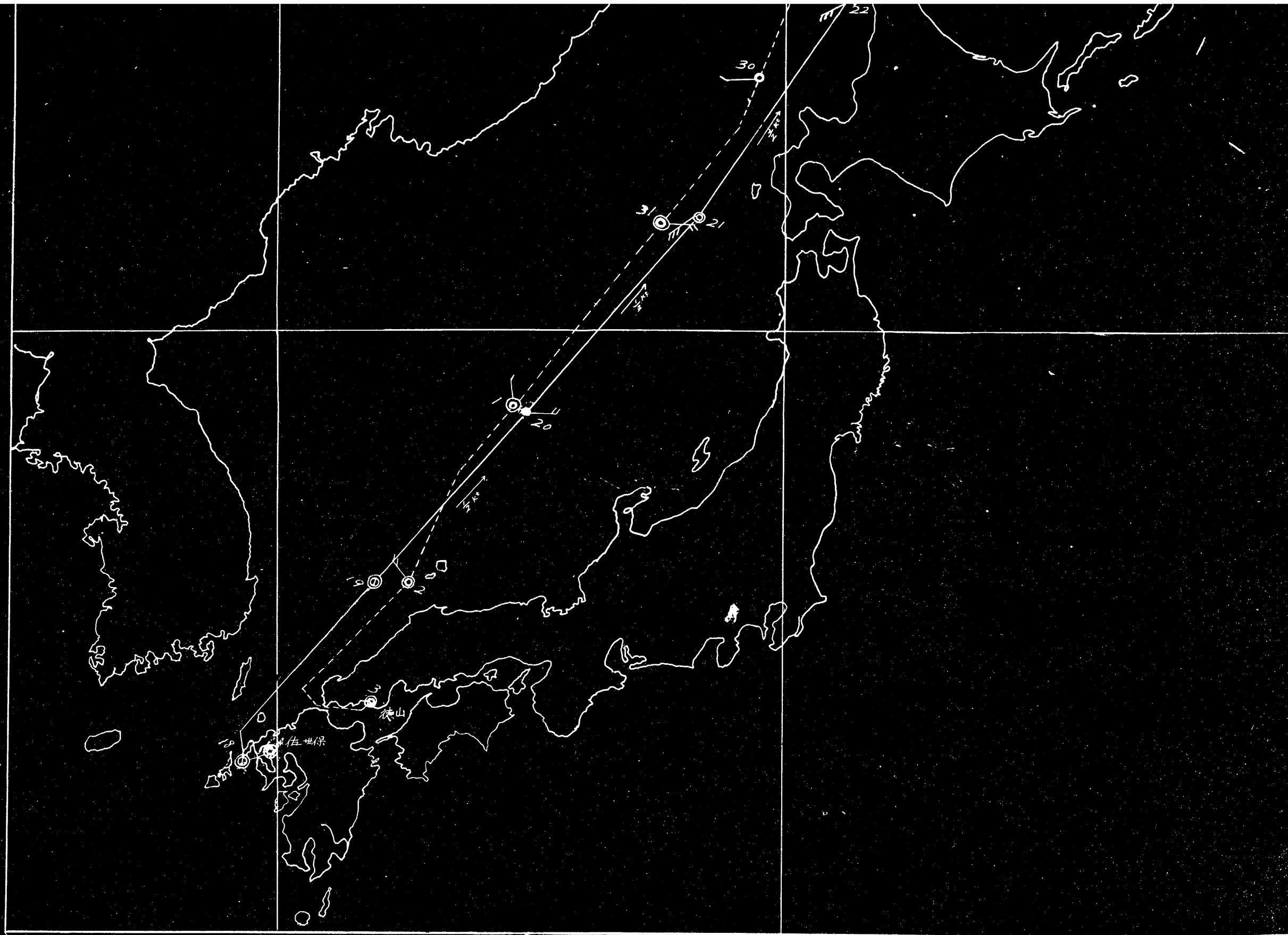
第十二回  
特務艦早鞆行動圖(付)

凡例

正午位置	○ / 中心より示ス
風向助	矢符風向 羽数風力
海況	→ 2 Kts
正午状況	○ 快晴 ① 半晴 ● 曇 ⊙ 雨 ⊖ 霧 ⊙ 雲測
航路	—— 往航 - - - 復航       霧

發	地名	着	發
	佐古保		8月18日 前9時
	才八	8月25日 前9時18分	8月26日 前6時10分
着	徳山	9月3日 前2時47分	





1060

1061

昭和七年自九月十二日  
至九月二十九日  
特務艦早鞆第十三回北樺太方面行動報告

目次

第 一	一 般
第 二	航 海 = 関スル事項
第 三	通 信 = 関スル事項
第 四	運 用 = 関スル事項
第 五	換 金 = 関スル事項
第 六	醫 務 衛 生 = 関スル事項

第一一號

一 任務

北樺太より徳山へ原油輸送

二 經過概要

地名	着	發	記
横須賀		九月十日	十日午前横須賀出港本州東岸津輕海峽宗谷海峽を経て北樺太東岸に於て約一昼夜濃霧に遭遇せし外公平穩順調に經過し十九日午前北樺太番洋標に繫留重油搭載を行へり
才		九月十九日 九月二十日	才公在泊中原油約八十噸ヲ搭載シ二十日夕刻出港セント揚錨之際錨鎖切斷セルヲ以テ出港ヲ見合セ翌二十日早朝自力にて切斷錨ヲ揚收午後出港セリ中遠一回霧霧モテ順調ナル航海ヲ続ケ十九日夜半徳山看早朝給油完堤ニ横付原油ヲ陸揚セリ
徳山	九月十九日		
備考	經過詳細ハ航海ニ関スル事項参照		

三 教育訓練保存整備

本行動ハ往復共天候ニ恵マレ稀ニ見ル好天氣ナリシヲ以テ豫定計畫ヲ實施シ或  
 技術技手旗操舵及見張競技ヲ實施シタルガ其成績一段ノ進境ニテラ認

又ヨリ

第二、航海ニ関スル事項

一、行動概要

地名	出入港時刻		航路	航程	航日	平均速度	平均速度	記
	着	發						
横須賀	九月十九日	九月二十日	一、本洲東岸接岸航路 二、津輕、南支那海峡利尻水道宗谷海峡通過 三、中知床、押尾、東八里通過海狗島漂泊 四、北知床、押尾、東方三〇里、北上	1409.0 哩	6日-23.1 時	8.0 節	8.5 節	
才八	九月十九日	九月二十日	一、宗谷海峡通過概不經路ヲ遂行 二、禮文水道通過日本海從斷 三、見島西方南島ヲ經テ下、開海峽通過	1494.0 哩	7日-10.7 時	8.4 節	8.4 節	
徳山	九月十九日	九月二十日						

二、航路、海象及氣象

別圖参照

三、經過

(一) 横須賀-才八間

一二日〇九〇八横須賀第七番浮標解纜出港偏北、風雨斷続ス

正午頃洲崎燈台附近ヨリ北西向流強ク約二節ニ達ス野島崎南方ヨリ羅針角、精度調査ヲ為通信ヲ依頼セシニ連絡意、如クナラズシテ中止



ニ二一の頃大吠埼東方ニ達スル迄偏東ノ風強カリシモ潮流(南回流)強ク約一五節ヲ感ズ

一三日正午頃ヨリ偏南ノ風曇リ時々晴

一七〇の金栗山東方ニ達スル陸岸薄霧アリ

一四日〇三〇〇 鮫埼東方ニ達スル迄約二五節ノ逆流ヲ受ク親潮ノ影響有ナリト認ム

一九〇の津輕海峡ニ入ル西北西ノ風八未満月快晴ノ中ニ同海峡ヲ通過大間埼白神岬ノ間ニ於テ約二節ノ東向流ニ會ス

一五日偏北ノ風視界極テ良好快晴奥尻海峡ヲ經テ北上ス

一六日未明利尻島ヲ舵五度三五哩ニ認ム正午頃ヨリ宗谷海峡ニ入ル靜穩快晴潮流ノ認ムハキモノナシ

一八〇の頃中知床西方ニテ淡霧來襲セルモ數分ニ霽ル明月快晴ノ中ニ知床半島連山ヲ認ムツ北上海豹島ニ向テ北東ノ風四米

一七日一五〇の海豹島ヲ船一〇度一〇哩ニ認ム

一五二のワカヲ揚グ

一六二の海豹島西方〇七哩ニ漂泊

一八〇五行進ヲ起スワカヲ入ル

一八四ニ海豹島ノ南東約三哩ニ達シ北知床岬東方約三哩ニ向フ

二〇〇六北知床岬ヲ月明薄霧ノ中ニ認メ北上ス高氣圧(七六六純)ノ中心近クマリ

二二四五偏南ノ風ニ米ノ中ニ濃霧束襲断続ス(水温九五氣温二二〇)

一八日〇八三〇「タンク」内排水開始

一五〇〇太陽ヲ散見シ天測ヲナシ得タリ約三哩豫定航路ヨリ東偏セルヲ

知ル

一五二〇排水終了

一七〇五霧霽ル快晴トナル視界極メ良好偏南ノ風七米(氣温二三水温

温二二八)

一九日〇三三〇推定位置五三度二五分止一四四度四分東ニ於テオハ泊地ニ向テ針

〇五〇〇「スリーブラザーズ」ヲ船四〇度ニ認ム

〇五三〇「オハ」油槽ヲ正艏ニ認ム

〇八五三第一番浮標ニ繫留ヲ始ム

(偏南ノ風三米快晴南流微弱)

(二)「オハ」徳山間

二一日一三〇〇「オハ」二番浮標ヨリ出港原速八三節(回転五四)北西ノ風六米晴微弱

ナル南流アリ